

志を残す

「誇りを持って」そう教わった
かつての上司は今ももういない

営業を四〇年

自分を見失うこともたくさんあった
客先では誇りなんて何の役にも立たない
それが本音だった

私は会社の顔として矢面に立っている
そんな自負があったから

最高の技術者と営業マン
つい安売りをしたこともある

それでも上司は完璧に仕上げてくれた
「オレたちの技術を売ってくれてありがとうな」
明け方のオフィスでやさしく言われた

「誇りを持って」

その言葉だけがわたしの頭に残り
彼の仕事は地図に残った
最高の技術者の仕事

私は彼ほど立派に生きることができない
しかし彼の残した仕事を記録にして
次に伝えることならできそうだ

紙は口ほどにもの言う

彼よりずっと歳の離れた
若い後進たちのために……

彼の仕事、そして熱い志は
きっとこの記録の中に今も生きている

熱い志を伝える印刷

株式会社 大 應

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-7-5 Tel. 03(3292)1488 <http://www.dai-oh.co.jp>



この話のスピノフ、また以前の
シリーズストーリーはサイト
でご覧になれます